

人むすびの場

第31回テーマ

“ボランティアのPR力”

～PRカコンテストを事例にして～

| | |
|------|-----------------------|
| 日時 | 平成23年1月25日(木) 午後7時～9時 |
| 会場 | スペースU |
| 企画運営 | “人むすびの場”づくり企画運営チーム |

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ
「ボランティアのPR力
～PRカコンテストを事例にして～」
- 西尾 雄志さん(にしお たけしさん)
(日本財団学生ボランティア センター長)
- 19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 角田知行さん
- 20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(ピアンタ)



「ボランティアのPR力」～PRカコンテストを事例にして～

ゲスト 西尾 雄志さん(にしお たけしさん)
(日本財団学生ボランティア センター長)

学生インターン 山田雄太さん・山田久二裕さん

- 日本財団学生ボランティアセンターでは、学生インターン主導で学生ボランティア支援の3つの事業を行っています。次の時代を切り開いていく人間育成を目指して取り組みをしています。
- 日本社会の現状を踏まえ、経済成長の鈍化(安定成長)や少子化の中で政府のパフォーマンスが低下し、ますますNPO・ボランティアが要請される時代になると考えております。
- 日本は、40代、50代の男性で経済問題でつまづくと死ぬしかないと思ってしまう現実がありますが、「大きな国家・小さな社会」から「小さな国家・強い社会」になって支える仕組みを持つ国もあります。
- 日本におけるNPO・ボランティアの現状では、社会的認知の不足、財政基盤の貧弱性などの課題があります。
- 社会的認知を高めるためには、ボランティア団体が、大切な二つの活動をする必要があります。一つは、活動の現場で、「いい活動」をすること。もう一つは、広く多くの人に活動を知らせるPR活動。
- 昨年、「競い合い×表現力＝成長」のコンセプトで、学生が運営しているボランティア団体が参加して、「PRカコンテストV-1 2010」を実施しました。
- なぜ、学生ボランティアにPRカコンテストなのかと言いますと、学生ボランティアに日本のNPO・ボランティアの現状に風穴を開けて欲しいと思うからです。
- コンテストのポイントは3つです。
 - ①一番良いところをコンテストで選ぶという競争原理を取り入れて活性化を目指している
 - ②全く映像をつくったことのない参加できるよう、メディアリテラシーを学ぶ講座を用意している
 - ③30秒で伝える映像をつくることで、自分たちの活動の一過性にならないコアを考える



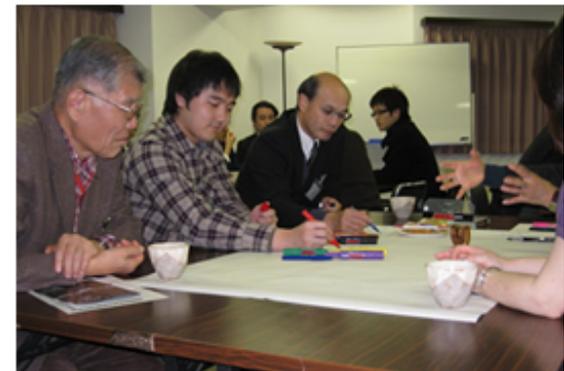
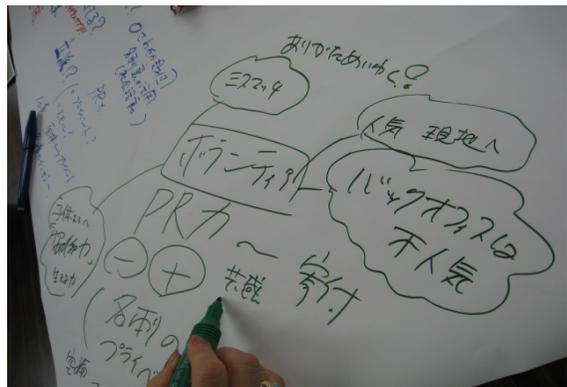
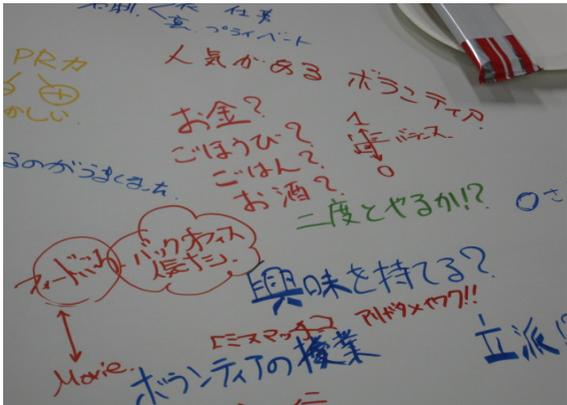
企画運営に当たった山田雄太さんは、30団体の参加があった中で、①映像表現が身についた、②活動の根源を見直し、原点に回帰することができた、と成果を語ってくれました。



山田久二裕さんは、PRカコンテストの目的について①発信力・表現力を成長させること、②学生同士の横のネットワークをつくる場、③自分たちの活動の10年後、20年後がどうなるのか、感じられるような輪を広げる、ことだと報告してくれました。

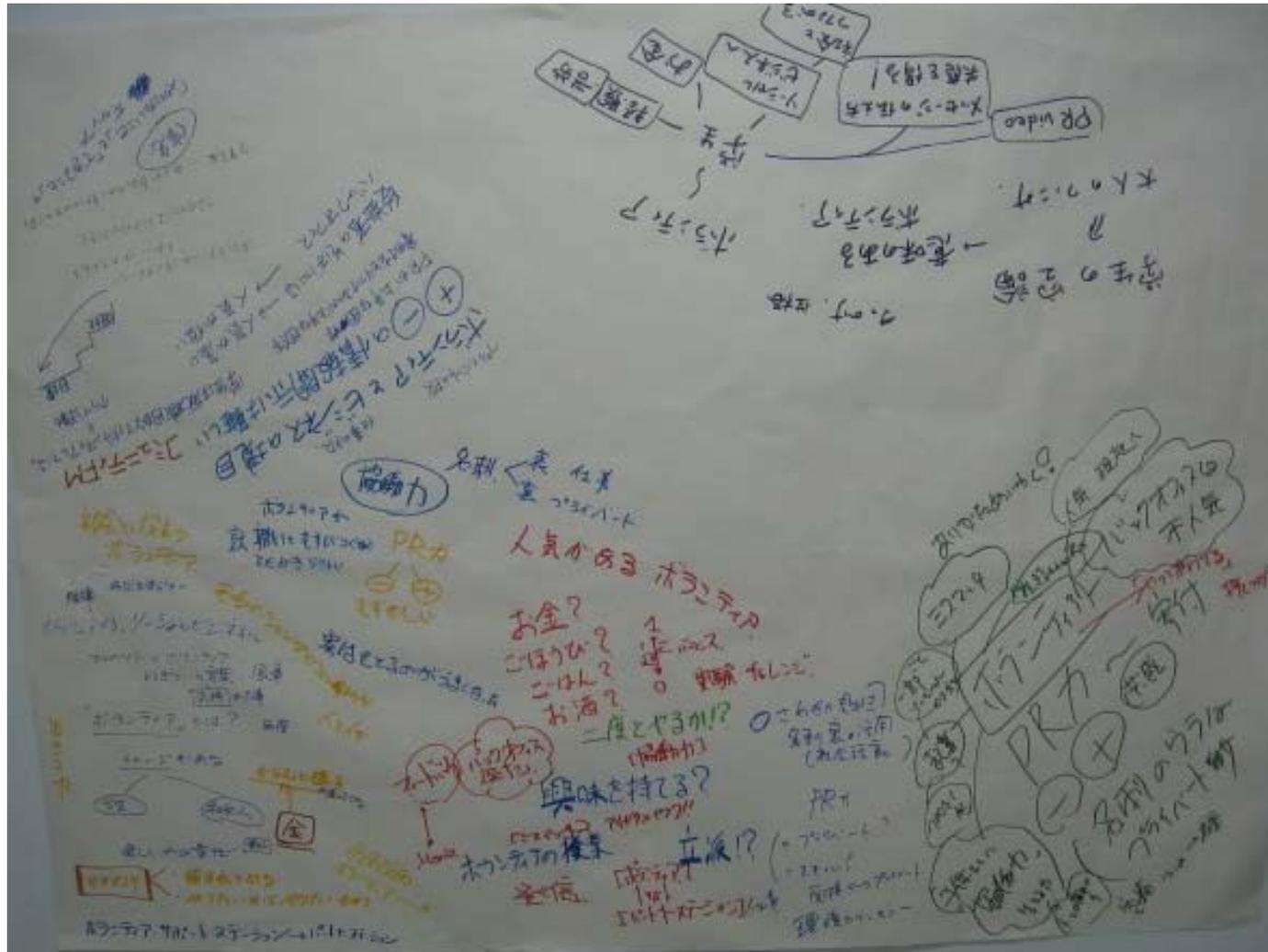


人むすびカフェ



人むすびカフェ - 3

「学生ボランティアのPRカコンテンツから感じたことは何ですか？」



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・学生ボランティアの多様な活動
- ・ボランティアの多様性、意識の問題
- ・学生ボランティアについての？を少しわかった。
- ・取り組み方、取り組んだ結果、もう少し検証が必要かな。
- ・「ボランティア」というテーマから自身の活動に結びつけてお話をされる方が多く、大変興味深いお話をたくさん聞けました。
- ・知られていないけど大切なボランティアをPRする必要性
- ・PTRという考え方
- ・ボランティアというイメージを変える。
- ・ボランティアという言葉がネガティブにとらえられがちということ
- ・ボランティアは発信することで、どこに共感されているかを常に問うていかなければならない。
- ・学生さんは、希望に満ちていてうらやましい。
- ・若者が意外とボランティアしている。中には就職に有利だと思っている人もいる。
- ・人と人、コミュニティの大事さを痛感。何とかしなきゃ、地域の手、輪、若い人も子ども、シニアもつながれるしくみを考えよう！
- ・「ボランティア」という言葉の捉え方が、年齢、性別、職業環境によってあまりにも違いすぎる
- ・水道橋でこのような多様な人の集りがあったこと
- ・みんな寂しい・・・時代？
- ・ボランティアをする人は寂しがりや？

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・30秒で伝えるとなると「コア」を考える必要がある。
- ・PR力の学びは「コア」を考えること
- ・先ず行動、感動、気遣い、思いやり、やりがい
- ・ボランティアをやる人、年齢、性別などいろいろある。
- ・「やろうとする」下地が言葉の端々に感じられた。
- ・ボランティアをするモチベーション
- ・学生がボランティアに関わるきっかけ
- ・PTR
- ・セルフモチベーション
- ・「PR力」～これが今まで社会の力として弱かった。
- ・これからは政府に頼れない。
- ・ボランティアの優劣はない。PR力の優劣はある。
- ・学生を参加させるノウハウ
- ・ボランティアという言葉のもつ意味 日本語にしたい
- ・便利は豊かさではない
- ・便利になりすぎ
- ・社会人の方のボランティアに対する意識
- ・ポスト資本主義社会はニューコミュニティ社会
- ・ボランティアはコミュニティの再生

本日の感想③

* その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。

- ・ 学生さんの意見が聞いてよかったです。
- ・ 日常考える機会のないボランティア、聞く機会はあるが、ボーと聞き流す状況を考えるようにしようと思った。
- ・ 年をとるとガンコになるのか、人の話をうけとめることがむずかしくなるのか
- ・ 時間が少ないのが残念
- ・ 私自身ボランティアに関する知識・経験がなく、深いお話ができなかったことが残念でした。
- ・ 理想、空論、実験、重要
- ・ 今回はすごく多様な話題に広がった感じで、それがよかったのか、悪かったのか、受け止め方は人により違ったのではないか。
- ・ 面白い意見をたくさん聞いた。
- ・ 一人では生きられないと言った人が一人で話しまくっていた。
- ・ 話が盛り上がってきた所でやめなければいけないので、残念！
ひとりの個性にひっぱられてしまう時間はもったいないと思った。
- ・ 年齢の振り幅があり、とても参考になった。
- ・ この会のなりたちはどのようなものだったのでしょうか。
- ・ ボランティアに変わる新しい言葉が必要
- ・ ワールドカフェの時間がもう少し長くてもいいのかな、と感じました。
- ・ 幅広い世代の人と「ボランティア」について話せて面白かったです。

皆さん、ご一緒に場をつくってくださってありがとうございました。